

メキシコ漫画（イストリエタ）キャラクターの社会学的考察

——「アデリータ」と「エル・サント」を中心に——

国際日本文化研究センター エルナンデス・エルナンデス アルバロ ダビド

1 目的 この報告の目的はメキシコ漫画（イストリエタ）の人気キャラクターを分析して、メキシコ大衆文化の中で生み出された「ヒーローの類型」を確認することである。大衆文化で生み出されるキャラクターは作品を作る作者の意図を反映する反面、読者の望みや好みをうまく取り入れない限り、商業的な出版物である漫画市場で生き残れない。この報告で取り扱うキャラクターは「アデリータ」と「エル・サント」である。このキャラクターたちはメキシコ漫画文化の初期（1930年代と1950年代）に生まれ、長い連載を経てメキシコ社会における社会的類型の形成に広く貢献したとされている。そのため、このキャラクターの分析によって、メキシコ社会における大衆文化の特徴と同時に、読者の望みや好みについても考察できると考えられる。

2 方法 この報告は資料と先行研究の分析と整理を基にしている。一次的資料は、「アデリータ」と「エル・サント」が登場する漫画である。先行研究は、これらのキャラクターについてすでに論じられていることに対する検討である。さらに、メキシコの社会的経済的背景や漫画の出版事情などについても、考察する。この方法論は社会学者 J.B Thompson のメディアにおけるイデオロギーの分析のための分析モデル「Depth Hermeneutics」を参考にしている。Thompson のモデルは P. Ricoeur の解釈学や C.Geertz の人類学を参考にしており、マルクス主義系のイデオロギー分析と少し異なる志向を持っている。本報告の目的は理論の検討ではないが、この方法論の妥当性についても言及する。本研究は初期段階であるため、現時点では漫画の一時的資料が少ない。そのため、これらのキャラクターを扱う映画や歌謡など、他のメディアも参考にしながら分析を行っている。

3 結果 この研究の初期分析の結果は次のようにまとめられる。「アデリータ」と「エル・サント」はそれぞれ、女性と男性を主人公として描く漫画である。これらは共に、漫画キャラクターになる前から、大衆的人気のあるキャラクターであったが、Jose G. Cruz という作者により、漫画メディアを通して、生まれ変わったものである。漫画キャラクターになることによって、キャラクターにはっきりした性格や物語上での特徴が備わるようになった。一番目立つ特徴は、「アデリータ」という女性キャラクターが、モラルから解放された女性として描写されている点である。逆に、「エル・サント」という男性キャラクターはモラル的な特徴が強調されている。これらの特徴は当時の読者に評価され、長い連載を支えるキャラクターの魅力であったと言える。

4 結論 本報告で取り扱うキャラクターはメキシコの漫画文化の初期に出されたもので、メキシコ大衆文化における社会類型の形成に広く貢献したキャラクターである。同時期（30年代から50年代にかけて）メキシコ社会は農村社会から、国家の公教育によって指導されるナショナリスト的なモダニティーを目指す都市社会になり、経済成長や産業化も実現される。大衆文化におけるモラルから解放されたヒロインとモラルの具現化であるヒーロー、という類型の成功にはそういった国家に指導されたモダニティーの特徴が反映されていると考えられる。現時点では分析はまだ初期段階であるが、こういったキャラクターの分析は、メキシコにおけるモダニティーの特徴の検討に大きく貢献することが期待できる。